

豊総だより

令和6年3月19日

第10号

兵庫県立
豊岡総合高等学校
学校便り



祝 卒業

選んだ道を誰も正解だとは言ってくれません。ですが、豊総での思い出や学びを胸に、自分で選んだ道を正解の道にできるように努力していきます。
(卒業生答辞より)

令和5年度

卒業証書授与式 挙行

卒業証書授与

担任による呼名

2/28

19期生
179名



卒業生代表
吉岡 洋翔



学校長式辞

(抜粋)

小山 朋子校長

皆さんの三年間の高校生活は「コロナ」に翻弄されたものでした。日々の生活はおろか学校行事や部活動も感染予防を理由に容赦なく影響を受けました。今しか経験できない様々なことが大いに制限され仲間との密で楽しいはずの高校生活とはかけ離れた、制約と我慢の日々となってしまったことを大変申し訳なく思っています。

しかしながら、そのような中であっても自分たちにできることに真摯に向き合い、我慢強くこつこつと取り組み、力を蓄えていきました。コロナが下火になった最後の一年間では、「我が青春を取り戻せ!」との強い思いを持って、学習、部活動、学校行事に励んでいましたね。辛抱と努力の二年間に蓄えてきたパワーを大いに発揮して、まさに青春を謳歌している皆さんのいきいきとした姿は、本当に逞しく立派で、私たち職員一同、皆さんの確かな成長に安堵と喜びを感じたものでした。入学前に思い描いていた高校生活とは違ったかもしれませんが、豊総での三年間は皆さんにしか味わえない唯一無二のもの。この経験が皆さんの自信となり、必ずや未来の自分を支える力となることと、確信しています。

来賓祝辞

代表して、PTA会長
中地 徹様よりご挨拶
をいただきました。

在校生送辞

(抜粋) 在校生代表
生徒会長 藤原 輝星

先輩方は、新型コロナウイルスの感染拡大により、学校生活に多くの制限を受けてこられました。文化祭では、2年間で中止を受けての開催でした。先輩方はそんなか生徒会執行部のみなさんを中心に、個人が活躍できる工夫を凝らした企画で楽しませ、クラスの結束力も高めることができた、思い出に残る、充実したものにしてくれました。

部活動では、先輩方はつらい練習の時も自ら声を出し、チームを鼓舞してくれました。最後の大会やコンクールに臨まれる先輩方の頼もしい背中が今でも脳裏に強く焼き付いています。そして、それが私たちの大きな支えになりました。

そんな先輩方が過ごされた高校生活の3年間の幕を閉じ、これから新たな世界へと旅立って行かれます。そこには多くの困難が待ち受けていると思います。けれども、この学び舎で過ごした日々、仲間との絆を、時には支えとし、時には救いとし、その困難を乗り越え、自らの力に変えられる強さを先輩方はお持ちです。そして、それらの困難を乗り越えた後は、先輩らしく笑ってください。その笑顔は誰かの次の原動力になると信じています。

卒業生答辞

卒業生代表
大田 由香梨
(裏面に全文を
掲載しており
ます)



卒業生退場

保護者、職員の拍手に見送られて



式後、最後のホームルーム



卒業生 答辞



肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、但馬に吹く風にも春の訪れを感じる今日、私たち十九期生百七十九名は、卒業の日を迎えました。三年という高校生活が幕を閉じようとしている今、私はこの場に立って「卒業」という文字に寂しいような嬉しいような気持ちを抱いています。皆さんは今、何を感じ、何を思い出しているでしょうか。

一年生。三年前の四月、憧れだった制服に身を包み、慣れない手つきでネクタイを結んで、期待と不安を胸に入学式を迎えました。この日のことを、今でも鮮明に覚えています。広い校舎の中を何度も迷いながら移動しました。進路に合わせた時間割づくりをしました。初めてのこと戸惑いながら、私たちの高校生活は始まりました。五月には遠足がありました。コロナ禍真只中であつたため、歩いて玄武洞まで行きました。みんなで嫌だ嫌だと文句を言いながら歩き、友達と仲を深めたことも今となればいい思い出です。また初めての体育祭や球技大会などを経験し、さらに友達との絆が深まりました。

二年生。一番の思い出は高校生生活最大のイベント、修学旅行です。残念ながら沖繩に行くことはできませんでしたが、先生方や旅行会社の方のおかげで福岡・長崎へ行くことができました。長崎の資料館では、生々しい写真や映像、ポロポロの服を目の当たりにしました。戦争の恐ろしさ、悲惨さを改めて感じ、二度と起こしてはならない、そして忘れてはならないと強く実感させられました。また、五つの体験学習も印象に残っています。私は、世界文化遺産である軍艦島に行きました。上陸できるか不安でしたが、私たちの祈りが通じたのか快晴となり、波も高くなく、無事上陸することができました。島全体が繁栄当時のまま残っており、最先端の技術と施設、高度な生活水準を持っていた炭鉱都市を間近に見ることができました。修学旅行は、歴史と、新たな文化に触れることのできた、貴重な四日間となりました。

そして、三年生。五月からマスクの着用が自由となり、みんなの顔がよく見えるようになりました。コロナ禍以前の学校生活に戻り始め、楽しそうに友達と笑い合う顔、真剣に授業に取り組みむみんなの顔が印象に残っています。そうして、マスクを外して行事を楽しめることへの期待を弾ませながら、最後の高校生活一年が始まりました。部活動の引退も近づくと同時に、本格的に自分たちの進路と向き合うようになりまし。部活動では、私は、女子バレーボール部に所属していました。最後の県大会では、目標としていた近畿大会にあと一歩届かず、悔しい思いをしました。しかし、同じ目標に向かって毎日本気で練習に励んだこと、学年を超えて喜びも悲しみも分かち合い、切磋琢磨したこと、それはこれからも忘れることはありません。他の部活動よりも同級生は少なく、たくさん悩んだり大変な思いをしたりもしました。同級生の二人、それでも最後までついてきてくれてありがとう。心も顔も鬼にして叱ってくださった顧問の先生。練習試合や試合ではいつも体育館中に響き渡る声で怒られていました。でもそれが、私自身を強くしてくれたと思います。私を変えてくれた先生です。ありがとう。ございました。

二期に入ると、私たちが楽しみにしていた最初で最後の文化祭がようやく開催出来ました。一、二年生はコロナの影響を受け、直前で中止となり、悔しい思いをしました。その二年分の思いを胸に、クラスのみならず協力してバザーを作り上げました。バザーやステージ発表、クラス展示で盛り上がり、みんなの思い出のひとつに刻まれました。

大きな行事が終わり、いよいよ就職試験や入学試験が迫ってきました。自分の進路に対する不安や葛藤を、私を含め一人ひとりが抱えていたと思います。ですが、毎日放課後先生にお願いをして面接練習をする人、休み時間に単語帳を開いて勉強する人、補習に参加する人を見て、頑張っているのは一人ではない、自分も頑張ろうと思うことができました。ありがとう。

また、十九期生学年団の先生方をはじめ、校

長先生、教頭先生、授業や部活動、進路でお世話になった先生方。一人一人の進路に真剣に向き合ってくださった担任の先生。毎日放課後、補習をしてくださった先生。分らないことを質問すると、分かるまで教えてくださった先生。コロナ禍でも私たちが楽しめるようにと行事を考えてくださった先生。多くの先生方のおかげで、こんなにも充実した高校生を送ることができ、一人の人間としても大きく成長することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

これから豊岡総合高校を担っていく在校生の皆さん。いつも名前を呼んで駆け寄り寄ってきても嬉しかったです。その明るさ、笑顔を大切に残りの高校生活も過ごして欲しいと思います。また、何か一つでもいいので努力を続けてみてください。努力を続けた時間は必ず自分を強くしてくれます。努力を続けられる人になってください。そして、女子バレーボール部の後輩たちには、叶えられなかった近畿大会という目標を託します。決して簡単な目標ではないです。ですが、みんななら辛いことを乗り越えることができると思います。皆さんの活躍が私たちの耳に届くことを楽しみにしています。

そして、共に三年間を過ごした十九期生のみんな。三年間の高校生活お疲れ様でした。これまで、高校生活の楽しかった思い出を述べてきましたが、全てが楽しかったという訳ではなかったと思います。受験勉強が辛かった人、人間関係に悩んだ人、部活動がしんどかった人、家庭のことで悩んだ人とそれぞれだったかと思いますが、悩んだから、辛かったからと高校生活を悔やんでいる人はいませんか。私は中学三年生の冬、自分の将来ややりたいことを考えた時、豊総へ進学するか、他の高校へ進学するか迷った時期があります。豊総へ進学するという自分の選んだ選択に自信が持てず、その選択が正しかったのかも当時の私には分かりませんでした。しかし、今となっては皆さんと出会い、辛いことや苦しいこと、楽しいことを

経験し、大きく成長することのできた豊総に進学できたこと、そしてこうして卒業の日を迎えられたこと、少しの後悔もありません。私はこの高校生活という三年間を、正解の道を選ぶのではなく、選んだ道を自分で正解の道にすることができました。辛かったりしんどかったりしたかも知れませんが、これも大切な経験です。大切な時間です。自分で選んだ豊総を正解の道にできたと誇ってみんなにも胸を張って卒業して欲しいです。

こうして高校生活を終えることができたのは、家族のおかげです。ずいぶん苦労や心配をかけてきたと思います。毎日、朝早起きをしてお弁当を作ってくれました。毎日、送り迎えもしてくれました。私のやりたいと言ったことは私が後悔しないようにと何でもやらせてくれて、応援してくれました。九年間バレーボールを続けさせてくれてありがとう。三年生になってからは、進路のことでもぶつかり合うことも多く、強く当たってしまふこともありましたが、いつもは照れくさくて言えないけれど、今日はこの場をお借りして伝えたいと思います。なかなか素直になれない、わがままな娘でごめん。二人の期待に応えたくて、二人の喜ぶ顔が見たくて今日まで頑張ってきました。本当は、いつもたくさん感謝しています。今日まで大切に育ててくれてありがとう。

いつもの道をいつも通りに登校すること、同じ制服を着ること、教室で「おはよう」「また明日」と言い合うこと、休み時間に笑い合うこと。今日まで本当に最後です。これからは、自分で選んだ道を目指して精一杯頑張っていきます。将来のことは誰にも分かりません。選んだ道を誰も正解だとは言ってくれませんが、豊総での思い出や学びを胸に自分で選んだ道を正解の道にできるように努力していきます。努力を続けて成長したみんなとまた出会える日を楽しみにしています。

最後になりましたが、本日はこのような盛大な卒業式を挙げて頂き、十九期生一同、心より感謝申し上げます。今後の豊岡総合高等学校のますますのご発展を祈念して、答辞の言葉とさせていただきます。